

あなたがまだ知らない、となりまちへ



甲佐町と美里町は古くから緑川の水運で結ばれ、豊かな水の恩恵を享受してきました。緑豊かな里山や田園風景が広がるわたしたちのまちに残された鉄道トンネルやトロッコ鉄橋の遺構は、にぎわいある当時の暮らしを今に伝えています。現在、豊かな自然に囲まれた緑川流域にはアウトドアを楽しめるスポットが点在し、訪れる人に安らぎや癒しを与えています。こうした地域資源を共有する2つのまちは、住みよいまちづくりのための連携協定を締結しました。

今月号では協定締結を記念して、お互いのまちを再発見する合同企画をお送りします。コロナ禍の今、普段は近すぎて見えていなかった、となりまちの輝きを探しに出掛けてみませんか。2つのまちをつなぐ橋を渡って、山と、川と、人が織り成す、かけがえのない景色を巡る小さな旅へ――。

8月23日(月) 甲佐町と美里町は、地域課題の解決や活性化を目的として、包括連携協定を締結しました。

町本庁舎で行われた協定締結式では、2町の町長、副町長、協議長が出席し、奥名甲佐町長と上田美里町長が協定書にそれぞれ署名を行いました。奥名町長は「町や郡の枠にとらわれないことなく、お互いの強みを生かしたまちづくりを進めていきたい」とあいさつ。上田町長は「お互いの町の強みを

2町が包括連携協定を締結



▲(左から) 美里町の吉住副町長、吉田議長、上田町長、本町の奥名町長、宮川議長、師富副町長



■美里×甲佐のアウトドアスポット

- ▶【川平キャンプ場/甲佐町】緑川のほとりの小さなキャンプ場。川のせせらぎを聞きながらの朝焼けは格別。☎096-234-2447
- ▶【井戸江峡交流拠点施設 (COMMON IDOE) /甲佐町】グランピングが体験できる施設。併設されたカフェやショップは日帰り利用も可。☎096-282-8591
- ▶【美里の森キャンプ場ガーデンプレイス/美里町】緑川ダム湖畔のキャンプ場。ロッジやオートサイトなどがあり、いろんなキャンプスタイルが楽しめます。☎0964-48-0158
- ▶【さまたんロッジ/美里町】道の駅に併設されたコテージ。温泉に浸れば日々の疲れも癒されます。☎0964-46-4111



■連携に基づく取り組み

町では、連携協定に基づき、美里町とともに次のような事業に取り組んでいきます。

● 防災対策の強化
(避難所の相互利用や防災訓練の共同実施など)

● 生活環境の整備
(生活関連機能サービスの広域化など)

● 観光・イベントの広域振興
(連携による観光・イベントの魅力向上など)

▼ お問い合わせ先
町企画課
☎096-234-1115
(内線251)

今後、2町では相互の地域資源を活用しながら、地域が持続的に発展していくための取り組みを進めていきます。

生かして補完し合うことで、町単体では難しいことにも取り組める」と協定の意義を話しました。

隣り合う2町は、人口規模がともに1万人前後で過疎地域の指定を受けており、人口減少や社会環境の変化などに伴う行政ニーズも多様化しています。そのような状況においても施策の充実を図り、住民サービスを向上させていくためには、限られた地域資源を有効に活用しながら、広域的な視点でのまちづくりや多様な連携が重要です。



ある。もういちど、故郷を見つけよう。



1_森を楽しむフォレストアドベンチャー・美里 2_フットパス「上井手コース」 3_熊延鉄道第一津留川橋梁橋脚 4_八角トンネル 5_安部の棚田 6_七郎次水源 7_下福良の棚田 8_日本一の石段 9_肉伏の切り通し 10_大沢水の茶畑

風

のにおいが、夏の終わりと、秋の到来を知らせてくれる。空は晴れやか澄み渡り、日差しは穏やかに降り注ぐ季節。清々しい朝の空気に誘われて、なんだか出掛けたくなる季節。天高く馬肥ゆる秋――。

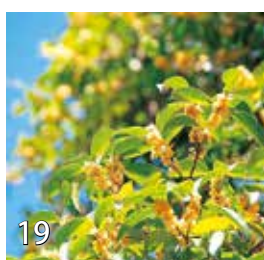
長く続くコロナ禍。いつまで続くか先が見えない。そんな中でも、緑豊かなこのまちの自然は、これまでと変わることなく季節を刻んでいます。遠出が難しい時だからこそ、身近過ぎて気が付いていなかったものに目が留まるはず。知っているようで知らない、となりまち。ここでは、甲佐と美里の美しい風景を少しだけご紹介します。



あなたがまだ知らない景色が、ここに



11_ 里山を舞うホタル 12_ 清正公が築いた鶴ノ瀬堰 13_ 大井手川を望む古民家 14_ 肥後国二宮の甲佐神社 15_ 宮内のトロッコ鉄橋跡 16_ 井戸江峡 17_ 津志田河川自然公園(乙女河原) 18_ 美里と甲佐をつなぐ沈下橋 19、20_ 麻生原のキンモクセイ



甲佐×美里の旅のお供にはこちらをご利用ください▼



甲佐のローカルウェブマガジン『magazine BO』



美里町観光ホームページ『みさとりっぷ』

この秋、耳にしたことはあるけどまだ行けていなかったあの場所へ、少しでも足を延ばしてみませんか。きっとそこには新しい出会いや発見があるはず。肩の力を抜いて、空気を吸い込んだら、さあ、1歩を踏み出そう。非日常への入口はその1歩から。澄みきった青空の下、あなただけの景色を探しに行こう。